

第54回 日韓技術士国際会議（新潟）報告

A Report on the 54th Japan-Korea Professional Engineers International Conference in Niigata

金 仁周
KIM Injoo

第54回日韓技術士国際会議は、2025年9月13日（土）から15日（月）までの3日間、新潟市のホテル日航新潟を主会場に開催された。

会議のテーマを「大規模災害に対する防災・減災と技術士の役割」とし、参加者数は日本から136名、韓国から80名であった。

1 プレイベント（9月13日）

14時30分～17時	第17回日韓親善サッカー大会
15時～18時	第18回日韓女性技術士交流会
17時～21時	会長・委員長懇談会
19時～21時	前夜祭

初日には、韓国側参加者が入国する新潟空港の大型サイネージに韓国語で歓迎の表示を行い、入国の瞬間から手厚い歓迎に喜んでいただいた。

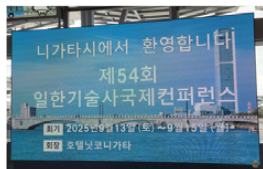


写真1 新潟空港サイネージでの歓迎

第17回日韓技術士親善サッカー大会は、新潟県立紫雲寺記念公園の多目的運動広場で開催された。小雨交じりの空模様であったが数日前までの猛暑は収まり、選手が体調を崩すことなく白熱した好ゲームが展開された。結果は4-1で韓国側が勝利し、両国それぞれ5名のVIPによるPKセレモニーも韓国側の勝利であった。



写真2 日韓親善サッカー大会

第18回日韓女性技術士交流会はホテル日航新潟3階「孔雀」で開催され、日本側15名、韓国側13名、通訳1名の参加があった。

参加者全員の自己紹介に続き、両国の活動報告（日本：宮地奈保子氏／韓国：申浩傳氏）およびDEI委員会の飯島玲子委員長からの特別報告が

あった。その後、日本側の木村了氏から「日本の伝統技術から学ぶ持続可能な技術」の発表、韓国側の林必男氏から「Using Web3 with Blockchain」の発表があった。いずれも興味深く有意義な内容であった。



写真3 女性技術士交流会

会長・委員長懇談会は、新潟古町「一メ」で開催され、日本側は黒崎靖介会長以下12名、韓国側は張徳培会長以下11名が参加した。また、日韓協定書履行推進の一つとして、両国技術士会で共通する分野協力について、韓国の土質及び基礎技術士会より尹材準会長、張祐榮氏が参加し、冒頭の両国会長の挨拶の後、「両国の土質及び基礎技術士の交流目的及び必要性」について説明・提案があった。日本技術士会では同分野が該当する建設部会との協議を進めてみることで認識を共有した。

会議では、参加者全員の自己紹介に続いて、2023年6月に締結した協定書履行計画等について議論がなされ、具体的に進めることにした。



写真4 会長・委員長懇談会

初日の夜には、ホテル日航新潟の31階展望室にて前夜祭が開催された。会場で北陸本部の青年技術士交流委員会の活動が紹介され、最後は北陸本部の佐藤豊事務局長が翌日以降の行事の成功を祈念して会を締めくくった。

2 研修視察（9月14日）

A 佐渡島コース（7時20分～18時20分） きらりうむ佐渡 → 佐渡金山 → 揚島遊園（昼食） → 八幡館 → 尾畑酒造
B 新発田コース（8時40分～17時） 菊水酒造 → 新発田城三階楼 → 村杉温泉（昼食） → 北方文化博物館

C 大河津・弥彦コース (8時10分~17時)
大河津分水資料館・洗堰 → さくらの湯 (昼食)
→ 弥彦神社 → 宝山酒造

研修視察は3コースで実施された。いずれのコースでも新潟県の歴史・文化・技術および伝統の酒づくりを学ぶことができ、また、昼食後の温泉入浴で両国の参加者が交流をより深めることができた。



写真5 研修視察 (佐渡島, 大河津分水)

3 本会議 (9月15日)

■式典 (9時~9時50分)

会長挨拶	黒崎靖介 (日本) 張徳培 (韓国)
基調報告	金仁周 (日本) 呉祥根 (韓国)
国際貢献賞	黄景性, 金泳敦, 朱勝皓

午前の部は、ホテル日航新潟の4階「朱鷺」にて行われた。式典では、両国会長による式辞に続き、来賓から祝辞をいただいた。引き続き、両国の交流委員会の委員長による基調報告があった。その後、本会会長から韓国の技術士3名に国際貢献賞が授与された。



写真6 式典 (会長挨拶, 国際貢献賞授与)

■基調講演 (10時~11時)

日本：平野吉彦 (応用理学/総合)
「日本における大規模自然災害の防災・減災と技術士の役割~2024年能登半島地震での取り組みを例として~」
韓国：白鏞 (地質及び地盤)
「両国間の活性断層と震災特性の比較」

北陸本部長の平野吉彦氏は、近年日本では地理・気象・地質的要因により災害が多発していることから、これまでの日本の災害対策の推移と課題とそれに対する本会の取り組みについて紹介した。

白鏞氏は、朝鮮半島では大規模地震の発生は少ないものの、東日本大震災以降は地殻の変化が見られるようになったと指摘。国として地震対策が

求められており、日韓の交流を通じた比較で技術発展に役立てたいと述べた。

■新協定書履行計画発表 (11時~11時50分)

日本：金仁周 (日韓技術士交流委員長)
「日韓協定書履行推進の方向性について」
韓国：朴有賢 (国際協力委員長)
「韓日技術士交流会 新協定書の履行及び韓日国際協力強化案」

両国で締結した協定書を履行するため、2回実施した両国の合同会議で議論した内容を踏まえ、①日韓技術士の相互協力に関する話題、②工学教育 (GA) から技術者資格 (PC) に至る IPD に関する話題、③両国以外の国際交流に関する話題、以上3つのテーマに関する履行計画を両国でそれぞれの方向性を発表し、まずは日韓技術士の相互協力分野での先行的な協力活動や両国が参加している IEA や FEIAP での共同提案など活動の歩調を合わせ、両国技術士会の国際的な地位向上を図ることを検討することとした。

発表後の会場からの質疑応答では今後も現実的な議論を進めることで賛同を得た。



写真7 基調講演, 新協定書履行計画発表

■分科会 (13時~17時)

午後は同ホテル3階および30階の会議室にて4つの分科会を開催し、逐次通訳 (第4分科会は英語発表) を交えて25名の技術士 (日本16名・韓国9名) が発表した。

第1分科会【建設, 安全管理, 生産管理分野など】
座長：金仁周 共同座長：白鏞

日本：「Walkable空間による来訪者数の変化と新たなにぎわいの創出」阪上勇登 (JABEE/土木および土木関連分野), 「地域防災力向上につながる避難訓練の『ミエル化』」澤橋絹代 (建設), 「原子力の安全性向上への取組から、世界が求める継続的改善を考える」佐々木聡 (原子力・放射線)
韓国：「非開削掘削現場の地盤沈下安定性を検討するための数値解析的アプローチ」白鏞 (地質及び地盤), 「構造設計法の変化を考慮した施設物の維持管理 対策」李在亨 (土木構造), 「Method of Worth Deduction and Key Target Selection for Effective VE」鄭然求 (建築施工)

第1分科会は、日本から阪上勇登氏が、伊勢神宮前の商店街の再生に向けた社会実験結果について、澤橋絹代氏が地震発生に伴う津波の襲来を想

定し、周辺住民がGPSを使った避難所までの所要時間を計測し、災害時の避難計画に反映する実験結果について発表し、佐々木聡氏が福島原子力発電所の被災後の原子力発電所の安全性に関する取組について発表を行った。

韓国からは白鏞氏が、水素エネルギー普及の水素都市建設において、都心内部を貫通する非開削水素配管網を設置する場合における地盤特性を考慮したシミュレーション結果に基づく数値解析について、李在亨氏が、橋梁設計における許容設計応力法や強度設計法、限界状態設計法について、鄭然求氏が、機能中心設計と費用節約を図る機法であるVE (Value Engineering) の評価手法について発表を行った。いずれの発表でも多くの質疑応答がなされ、質疑応答の時間制約があったテーマはロビーでも白熱した討議となった。

第2分科会【機械、材料、電気電子、情報通信、化工、デザイン分野など】

座長：小田慎吾 共同座長：延熙正

日本：「超音波によるPFAS処理技術」平野富夫（金属／総合）、「除振台メーカーのエンジニアとして防災・減災に対してできること」村山誠（機械）

韓国：「地下鉄工事による地盤沈下と地中送電線路復旧工事」高英植（送電配電）、「BIM-integrated Knowledge Graph for Managing Water Leakage Defects in Apartment Buildings」延熙正（建築施工）

第2分科会は、日本からは平野富夫氏が集中超音波照射によるPFASの分解技術を紹介し、村山誠氏が、東日本大震災における除振台の損傷事例と対策を紹介した。

韓国からは高英植氏が、地下鉄工事における予想外のトラブル発生に対する対策やコストの大幅低減の事例を紹介し、延熙正氏がアパートビルにおける水漏れについて、①BIMと②水漏れ箇所、③水漏れ原因の3層の関連付け手法および解析手法について発表を行った。

いずれも、両国にとっては関係するテーマが選ばれており、今後その課題について、AI、人工知能等といった最新技術をどのように活用していくかなども紹介され、活発な質疑応答と意見交換が行われた。

第3分科会【農畜産・林業・漁業、鉱業資源、食品、繊維、環境及びエネルギーなど】

座長：沼澤朋子 共同座長：呉祥根

日本：「日本技術士会のDEI推進」中田よしみ（原子力・放射線）、「藻場造成の実践的手法の研究2025報告」榎並万里子（建設）、「秋田臨海処理センターエネルギー供給拠点化事業」清水恭亮（電気電子）、「CN2050対応のための環境倫理視点」平田賢太郎（化学）、「認知科学者芥米地英一博士による『大規模原子力発電所災害に対する“超小型原子炉4S炉”の第三者評価』の情報発信」井上祥一郎（建設／上下水道／衛生工学／農業／森林／水産／応用理学／環境）

韓国：「韓国におけるゼロエネルギービル（ZEB）義務化に伴う地下防水および熱橋部位の断熱技術の変化」呉祥根（建築品質試験）

第3分科会では、日本側からは、中田よしみ氏による日本技術士会DEI宣言の報告、榎並万里子氏による藻場造成の課題とその解決法にかかわる発表、清水恭亮氏による、マイクログリッド（ミニ発電所）の設計・運用課題への対策など技術面・マネジメント面からの発表があった。また、平田賢太郎氏、井上祥一郎氏からは、環境問題への取り組みに対する倫理的関連からの示唆があった。韓国側は、呉祥根氏から、断熱技術などを活用したゼロエネルギービルの設計について紹介があった。いずれのテーマについても、活発で充実した議論が行われた。

第4分科会【英語発表】

座長：小松英司 共同座長：曹圭永

日本：「Challenging the demands of society ~ Beyond SDGs」掛川昌俊（機械／衛生工学／総合）、「What's PFAS?」野々部顕治（上下水道／衛生工学）、「Climate change is causing increasingly severe impacts and disasters. What are the adaptation measures and the role of professional engineers in this context?」小松英司（環境）、「Self-learning of the global warming mechanism with basic scientific knowledge」松原守（機械）、「Future Prospects of Japan's Dairy Industry」森山浩光（農業）、「Debris Flood Time Scale and Evacuation Eye Tracking」安東尚美（建設／総合）

韓国：「Earth pressure and Quality control method for Large Prestressed Concrete Cylinder Pipe installation by shaped bedding method」曹圭永（土木施工、土木品質試験、建設安全）、「A study on the standardization of financial services ISO TC 68」尹惠榮（情報管理）、「Optimal Design for New Rotary Engine with Geometric Shape Functions on Combustion Chamber and Ports」金榮稷（車輛）

第4分科会は発表、質疑応答をすべて英語で行うため、日本側から6講演、韓国側から3講演と多くの発表がなされ、分科会を2部制にして実施した。第1部では、曹圭永共同座長から大型プレストレストコンクリート円筒パイプ設置の土圧と品質システム法、掛川氏からは技術士の活動を

SDGsと結びつけることによる国際課題への取り組み、尹氏から金融サービスの標準化（ISO TC68）に関する研究、野々部氏からは最近注目されているPFAS汚染に対する対策、小松座長から気候変動の適応策と技術士の役割について発表を行った。第2部では、松原氏から温暖化メカニズムの温度分布モデルを使った考察、金氏から幾何形状関数を用いた新型ロータリーエンジンの最適設計、森山氏から酪農の環境配慮型生産システムと新たな価値の創出、安東氏から土砂災害発生時間スケールとVR技術を用いた避難行動について発表を行った。

第4分科会では英語での発表、Q&Aを行うために、他の分科会よりも多くの講演や議論ができ、国際会議の雰囲気を経験できるが、参加者が少ないことが課題である。来年以降、多くの技術士の参加が望まれる。

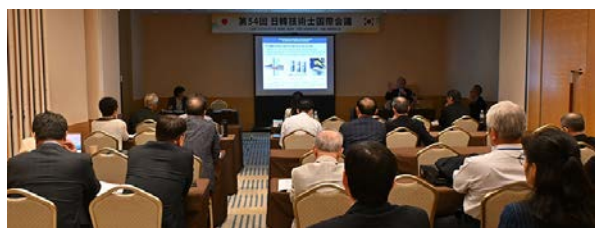


写真8 分科会

■自由交流会（13時～16時）

自由交流会は4階「白鳳」で行われたが、事前の周知不足また各分科会と開催フロアが異なっていたこともあり、韓国側の参加者は1名であった。冒頭、橋本義平氏が口火を切り、日本側の各参加者が韓国側に質問する形で交流会は進んだ。若手技術者への技術継承等は、日本国内の課題と同様であることが分かり、今後も課題解決に当たり交流を深めることは有意義であることが理解できた。

■パートナーズコース（9時～16時）

日韓併せて30名が参加し、午前は旧齋藤家別邸と知足美術館を訪れた。知足美術館では本大会の日程に合わせて韓国の弘益大出身である12人の画家による「技術と芸術のコラボレーショ



写真9 パートナーズコース

ン」が開催され、韓国画家らの作品を鑑賞した。新潟ふるさと村で昼食をとった後、午後は新潟縣護國神社を拝観した。

パートナーズコースに参加した同伴者らの交流で、日韓技術士のみならず同伴者らの理解と交流が進んだ。

■親善晩餐会（19時～21時）

親善晩餐会は、ホテル日航新潟「朱鷺」において開宴前に新潟古町芸妓による祝舞が披露され、華やかな雰囲気であった。両国技術士会会長、来賓の挨拶の後、来賓と両国技術士会VIPによる鏡割りと中山参与の乾杯で幕を開けた。



写真10 親善晩餐会

続いて、黒崎会長より親善サッカー大会における両国選手の健闘を称え、両国サッカーチームのMVP選手の表彰が行われた。

また、本国際会議が新潟市で開催されるのが3回目（1992年、2008年、2025年）となることから、3回すべてに出席又は関わった8名の方々（青葉堯氏、渥美純一氏、崔鎮宇氏、小林武夫氏、中山正子氏、中山輝也氏、小熊修徳氏、大谷政敬氏）に新潟市国際交流協会から感謝の記念品が贈呈された。

宴もたけなわの中、張会長令夫人による扇子の舞が披露され、韓国側同伴者・技術士による合唱（「同伴者」、「愛」）と日本側同伴者を中心とした合唱披露で高潮し、全員で「ふるさと」、「上を向いて歩こう」を歌って、盛大にフィナーレを飾った。

最後に、2026年10月16日（金）～18日（日）に開催する第55回日韓技術士国際会議について、開催地である韓国仁川市のプロモーションビデオが上映され、韓国技術士会の張会長、呉委員長から仁川市（2回目開催）での再会を呼び掛けられた。

日韓技術士交流委員会 委員長 金 仁周